

の第3セクターか何かの中古バスが、はるかカンダハールまで流れてきている。

「あー、ここが神戸やったらなー」。

乗客数十人に囲まれて、思わず日本が恋しくなる。

このカンダハール空港は軍民共用の空港。滑走路にはISAFとアフガン軍の軍用ヘリ、米軍の戦闘機がずらりと並んでいる。

神戸のミニバスは、砂漠の中の一本道を走り出す。すれちがうのは軍用車、装甲車のみ。カブールと違って、ここは明らかに「戦争のニオイ」が充滿している。やがてバスは国道に出て、一気にカンダハール市内へと突っ走る。あとでわかったのだが、この国道には多数の路肩爆弾（IED）が仕掛けられており、通称「IED道路」と呼ばれていたのだ。

カンダハール市内入り口でバスを降り、あわててタクシーを拾う。

「市内のホテルへ」。

「どのホテルですか？ 旦那」。

「とにかく市内の最高級ホテルへ。急いでくれ」。

イブラヒームが運転手に命じ、カンダハール中心部

へ向かう。

カブールでもそうだが、最高級ホテルはそれなりに警備がしっかりしていて、この国では国連職員やジャーナリストが宿泊している場合が多い。相対的に安全である。コンティネンタルゲストハウスへ。玄関に警備員が数名いて、バーの上げ下げで中に入れる仕組みになっている。このホテルが正解だ。

はびこる「戦争ビジネス」

ホテルの中には、別の民間軍事会社の社員たちがたむろしていた。屈強な体にスキンヘッド、腕には刺青が彫られていて、サングラスをかけている。なぜかみんな同じようなスタイル。ちがいはあるとすれば肌の色が白いか黒いか。カンダハール空港は現在拡張工事の中で、その工事を警備しているのか、それとも政府の要人を護衛しているのか……。

とにかく、ハイリスク・ハイリターン。イラクでもアフガンでも「戦争の民営化」が進んでいる。

ホテルで遅い昼食を取り、市内でもっとも大きいミルワイズ病院へ。連日のように空爆と銃撃戦、そして